



世羅高 同窓会会報

発行
広島県立世羅高等学校
同窓会報編集委員会
世羅郡世羅町本郷870番地

同窓会報発刊によせて



同窓会長 小島 敏文

新年明けましておめでとうござ
います。

同窓会報創刊に当たり、ご挨拶を申し上げます。会員の皆様には、本会の運営につきまして、日頃格別のご理解とご協力をいただき、そのご労苦に対し、厚くお礼申し上げます。

今年は二十世紀最後の年、大きな節目の年でございます。先人達が築かれた二十世紀は、富国強兵策の下での戦争、そして終戦から世界第二位の経済大国へと、歴史上稀れに見る波乱に富んだ世紀でありました。その先人達のご苦労の上に私達は豊かな社会を享受させていたいただきながら、今日まで生かされて参りました。

しかし一方において、人間として最も大切な心のありようが、物質万能に片寄り、歪んだ社会となっていることは、万人が認めると

ころでございます。

教育界においても、社会全体の流れの中で、権利のみが強調され、社会生活に於いて、最も大切な人間としての義務を軽んじる風潮は、今日の教育界混乱の一因であると考えます。

また、昨年二月二十八日の石川敏浩校長の自殺は、まさに広島県教育の混乱の象徴としてとらえるにあまりある大変痛ましい出来事であり、先生の一週忌を目前にし、改めて心からの哀悼の意を表する次第でございます。

同窓会として、故石川校長先生を支える力となり得なかつたことを大変悔しく残念に思っております。また、事件の報道以来、東京交友会有志をはじめ、近畿同窓会、台湾同窓会等、皆様方から母校の行く末を案じ、数多くの書簡が寄せられました。全国各地で活躍しておられる同窓の皆様に変なご心配をお掛けしておりますことを申し訳なく思っております。

母校が直面している諸課題の解決に同窓会としていかに協力すべきかを考えて参りましたが、昨年八月二十八日にPTAを中心に、各行政機関、各種団体、同窓会が結集し、「広島県立世羅高等学校を育てる会」が設立され、地域を挙げて支援態勢が整えられたところでございます。幸にして昨年四月に着任された田邊康嗣新校長先生は、世羅高校再生の基本理念と

して、

(一)学力をつけること(三年間を見通した計画的な進路指導)。
(二)生活指導を徹底すること。

(三)スポーツ・文化活動の活性化を掲げられ、これらの徹底を図れば生徒は自ずと世羅高校に集まってくる、併せて、地域の発展に貢献出来る学校づくりを推進して行きたいとの強い信念の下、日常の教育実践の充実に努力を傾注していただいております。

また、PTAの活動として、保護者の方々による毎週一回の登校指導と授業参観、学校行事への参加など。教育講演会、中高連絡会、さらには「育てる会」へ教職員も出席し、皆で考え話し合える場が整いつつあり、日々母校は安定と明るい方向へ向かっていると感じております。

中国の古典に、「蛟竜雲雨を得れば、終いに池中の物に非ず」とあり、長い伝統に培われた本校が、この難局を克服し、近い将来、雲雨を得て蘇える時が必ず来ると信じて、一歩一歩努力を積み重ねて行く決意でございます。どうか、会員の皆様方の今後一層のご協力ご支援をお願い申し上げます。

同窓会会報をもつて、母校の現状をご報告申し上げますと共に、皆様のこの一年のご多幸とご活躍を祈念申しあげ、ご挨拶と致します。

二〇〇〇年を 迎えるにあたって



広島県立世羅高等学校 校長
田邊 康嗣

同窓会の皆様には平素より本校教育に対して多大のご支援をいただき、感謝しております。

さて、一九九九年は、世羅高等学校にとって「国旗・国歌の問題」をはじめ「生徒指導の問題」や「定員割れの問題」など、大きな課題に直面した一年でした。このため生徒や保護者、同窓生の皆さんはもちろんのことですが、地域や広島県、全国の人々に対して世羅高等学校はどこへ行くのかと大変にご心配をおかけいたしました。

その中で、一学期は入学式における国旗国歌の取り扱いや生徒指導の問題など、世羅高等学校のいままでの教育活動の在り方が問われました。混沌とした状況であればあるほど、基本に立ち帰ることが大切であり、学校の教育活動の基本を「学力をつけること、生徒指導を充実すること、部活動を活発にすること」におき、その充実に全力を注いできました。

そのため、広島県教育委員会の

新規事業である「フロンティア21」に応募し、七月一日に生涯学習センターで行われたコンペにおいて世羅高等学校が選ばれました。

「地域の小学校と連携したパイオ」によるササユリの栽培と植え付け、「ササユリやさぎ草等の花壇づくり」「世羅高ブランドの開発」「世代間交流会（クリーンウォークキング）」「ほのぼのデイサービス」「農場や企業、施設等の現場実習」「情報処理講座」の実施など、地域の発展に貢献する教育の創造改善に取り組んできました。さらにこの二月には、こうした取組みの発表会として「せら学びピア」を開催することとしています。

また、文部省の是正指導への対応や職員会議に関する管理規則の改正など、学校運営に関する事項への対応もありました。学校運営の基本方針は県民のみなさんに対する説明責任と結果責任にあり、そのため「法律に基づいた学校運営」に努めてきました。

八月二十八日には、世羅高等学校のPTAを中心に、同窓会、地域をあげて、「広島県立世羅高等学校を育てる会」を設立していただくことができました。この保護者や同窓会、地域あげての大変に大きなご支援に対して、世羅高等学校が生徒や保護者、地域にとって、「学びたい学校」「学ばせたい学校」となるように努力する決意であります。

二学期の中心課題は入学者

の確保であり、そのためには世羅高校と保護者、中学校、地域との信頼関係の確立が大切であります。そこで、中高PTA連絡協議会の開催やオーブンスクールの実施など、地域の中学校との連携に努めてきました。また、広島県立世羅高等学校を育てる会の主催による「輝け世羅高校！ふるさとふれあい演奏会」の実施など地域との連携を推進するとともに毎週火曜日に保護者による校門指導を実施するなど学校とPTAとの連携を行ってきたところです。

さらに、陸上部の保護者会からの要請に基づき、陸上競技部後援会が中心になってサテライトを導入していただき、衛星放送を利用した受験講座の補習を受けることができるようになりました。

陸上部は広島県高校駅伝大会でまさかの二位になってしまいました。十一月二十一日に岡山県井原市で行われた中国駅伝競走大会では四位に入り、中国代表枠で全国大会へ出場し、惜しくも入賞を逃したものの、多くの人々に大きな感動をあたえてくれました。女子剣道部も中国高校新人剣道大会へ出場することになりました。

生徒たちの頑張りが世羅台地の上に星となって輝いています。世羅高等学校が生徒や保護者、地域にとつて、「学びたい学校」「学ばせたい学校」となり、広島県の星となつて輝くように努力していく決意であります。



松山理人育てる会会長の挨拶

世羅高校を育てる会 発足に想う

PTA会長・同窓会副会長
栗森 武文

同窓生の皆様には、平素より世羅高校に對しまして、格段のご助力をいただいておりますことに對し、厚くお礼申しあげます。

さて、世羅高校において昨年は、これまでの百年余におよぶ長い歴史の中で、最も大きく揺れ動いた年となりました。

三月の卒業式を前にして、「日の丸・君が代」をめくり、石川校長が亡くなられたことにより、世羅高校が全国的にマスコミ報道され、同窓生の皆様には複雑な思いでテレビ・新聞等をご覧になったのではと考えます。

このことは、八月の国会において「国旗・国歌」法案が成立することにより、一定の終結を迎えました。

こういった状況は、私たち保護者にとり、これまでのPTA活動・学校との関わり・家庭での子どもとの関わり方等について、今一度考え直す機会ともなりました。

昨年四月には、田邊校長先生が着任され、先ず言われたことは、「高校は進路を保障し、生活指導を徹底し、クラブ活動を活性化することが出来れば、生徒は集まり、生き生きとした学校となる。」というものでした。

全国的に子どもたちの問題行動が大きく取り上げられ、殺傷事件・金銭強要や暴力行為などが発生し、かけがえのない生徒の生命が失われるなど、極めて深刻な状況であると報告されています。こういった子ども達を取りまく環境を①家庭での親子の触れ合いが少ない。②学校での教師・生徒間の信頼関係の希薄化。③地域社会での教育力が低下し、無関心になっている、と分析されています。

このことは、世羅高校においても、喫煙・飲酒・夜間徘徊等の問題、茶髪・ピアス・ミニスカート等の服装の乱れなど、全国の縮図として現われています。

保護者として、今、何をしなければならぬのか、まず出来ることから行動に移して取り組んでいきます。

学校における生徒の実状と生活指導の状況を先ず認識することが必要だということで、四月より保護者による登校（校門）指導を毎週一回、本年二月まで計画実施しています。又、文化祭には、リサイクルバザーでの出店を取り組

み、多くの参加をいただきました。その他、地区懇談会・学級懇談会・教育講演会等、学校・保護者間での関わりを深める場の充実に努めてきたところです。こういった取り組みを進める中で、家庭における保護者の指導の責任を再認識してきました。

学校・家庭に加えて、これまで子どもたちの成長に大きな影響を与えてきた地域の教育力を生かして行こうと、今年八月末に学校関係者・行政・商工会・企業等の協力を得て「世羅高校を育てる会」を設立しました。

中高連絡会議・ボランティア活動等を計画・実行してきています。世羅高校が地域の中で存在感のある学校として定着できるよう、地域にも輪を広げて行きたいと考えています。

私は、我が母校・子どもの母校である世羅高校を紹介する時に、「駅伝の世羅」ということを誇りをもって言ってきたものです。

三年連続三十一回目の全国高校駅伝競走大会出場を果たしてきましたが、今回は大きな重圧の中で全国大会で期待に応えてくれました。このことは、特に感慨深いものがあり、世羅高校再生の第一歩であると感じます。

今日の世羅高校は、学校・保護者・地域が一体となって努力し、日々変ってきていることをご報告し、私の挨拶と致します。

学校の現状

進路指導係

本校生徒の進路希望は、国公立大学から公務員・一般企業就職まで幅広いものとなっています。その実現のために、進学・就職受験に対応できる学力を身につけることを重点に置いた進路指導を行っています。

まず、進学においては二年次から早朝の英語・国語・数学の補習授業を行っています。三年次からは理科・社会を加え、早朝・放課後・夏休みをフルに活用し、遠方の塾や予備校に通わなくても学力の向上がはかれるようにしています。来年度からは、陸上部の寮に河合塾の衛星放送の授業(サテライト)が入ることになり、それを補習授業で使わせてもらうことになりました。より一層の学力強化が期待できます。

また、普段の授業のカリキュラムも生徒一人一人の進路希望に応じた幅広い教科選択ができるようになっており、それぞれの進路目標が達成できる授業編成が可能です。

最近では、推薦入試での進学者が増えましたが、国語科の教員を中心に小論文指導、面接については校長・教頭をはじめとしてすべての教職員で指導を行うという

態勢で臨んでいます。

また、近年卒業生の方々の多方面での活躍や進路実績により、本校を指定校として推薦枠を下さる大学・短大が多くなってきました。大学は県内の私大を中心に二十三大学五十一人分、短大も全国から二十三短大八十二人分の枠があります。三年間世羅高校で勉学に励み、優秀な成績を修めた生徒については、この枠を使つての推薦をしています。

就職については、この不景気の中、特に高校生の就職が難しいといわれます。しかし、本校今年度三年生の就職希望者は約三十名でしたが、まだ決まっていない者は数名のみ、九十%をこえる決定率となっています。高校生全体の決定率が五十%そこそこといわれる中、よく健闘していると言えます。

就職指導としては、就職希望者に対して模擬試験問題の実施・解説を中心とした補習授業、また面接指導を行っています。求人開拓のために毎年五月には、校長と進路の係で企業訪問をし、一人でも多くの生徒が希望の業種・職種に就職できるように企業側との連携をとっています。また三月には一・二年生を対象に各方面で活躍されている卒業生を学校に招き、

進路講演会を開催し、社会人としての心構えや入社試験のための対策などの話をしていたいています。

また入社が決定した生徒については、残り少ない高校生活を充実させ、社会人となるための充電の時期を充実させるために追指導というところで、内定をいただいている企業に対して現状報告書の提出をさせています。

これらの取り組みの結果として、毎年都市部の学校には決してひけをとらない進路実績をあげていると思います。世羅台地の明日を担う人材育成のために、学校をあげて進路指導に頑張っているところです。

同窓生の皆様の今後一層のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

生活指導係

昨年度以来、「世羅高校の生徒の現状はこれでよいのか?」というPTAの方からの声や、教職員自体の「世羅高校をどうしていけばいいか」という問題意識から、様々な生活指導上の取り組みを進めていき、保護者の方々にも協力をして頂いてきました。今年度もそれらを継続・発展させていき、

- ① 遅刻・無断欠課に対する指導
 - ② 服装・頭髪違反者への指導
 - ③ 校内・校外巡回指導、校門指導
- という三点を中心として、取り組んでいるところです。
- 個々の指導の内容は、①・②については以前に保護者の方々に指

導内容を文書で送付をさせていただきましたが、

① 遅刻・無断欠課が一月に五回以上あった生徒についてその月の生徒の出席状況用紙を家庭に送付し、それを繰り返す場合には保護者とともに校長訓戒を行うつたり、授業態度の点検を行うようにしています。

② 服装・頭髪検査も含めて職員で服装・頭髪違反生徒に指導をしていき、どうしても違反が改まらない生徒については、直して登校するようにという帰宅指導を行っています。

③ 巡回指導は校内外の美化、喫煙や授業への遅刻防止のために昼休みなどの休憩時間に行い、朝の校門指導は遅刻防止や挨拶運動、自転車の駐輪指導を行い、昼休みには校外への外出防止に正門での指導を行っています。

これらの取り組みは遅刻生徒の減少や極端な服装・頭髪違反の生徒が見られなくなったというような成果をあげてきてはいますが、二人乗りなどの自転車のマナー・土足・学習意欲など、まだまだ課題も多く、教職員の指導になかなか従わない生徒も見られます。

生徒の問題行動には、個々の生徒の置かれた状況や抱えている課題がその背景にあり、ただ単に指導を厳しくしていくだけでは効果が出ない場合もあります。なぜこういう指導が必要なのか、個々の

生徒に話し込みをして根気強く指導を続け、学校と家庭との連携を密にしながら、個々の生徒がよりよい高校生活を送れるように取り組みを進めています。

学科の現状

普通科

現在、本校普通科の定員は四十名×三クラスの百二十名です。

本校普通科の特色は、スマートで、精選されたカリキュラムにあると思います。土曜日の隔週休みに伴い、授業時間数は減少しましたが、必修科目数は変わらず、入試科目の多い大学を受験するのには不利になっていました。そこで三年前から、教育課程検討委員会を頻繁に開き、スマートで精選された、多彩なカリキュラムを作ることができました。これにより、生徒は自分に必要な科目をたくさん履修し、なおかつ、ゆとりのできた土曜日などを、自由に活用できるようになりました。しかし、生徒は一年生から自分の学ぶ科目を選択しなければならぬので、早くから自分の進路を決定しなければなりません。また、学生を確保するために受験科目を減らす大目も増えています。そのため目先の受験だけに目をうばわれ、

学んでおかなければならない科目を選択しない生徒もいます。そのため、クラス担任は生徒たちに適切な進路指導を行っています。

このように、課題も多いが、一方ではパラグライダーを授業に取り入れ、西日本で唯一、飛行体験ができ、三年後から必修となる総合的な学習の時間を来年度から取り入れるなど、ゆとりのある、一人一人を大切にしたい科をめざして頑張っています。PTA・教職員だけではできないことも限られていますので、これからも、地域・同窓生の方々のご支援をお願いいたします。

生産情報科



ナシ園における農業実習

学科改編以来、生産情報科では近隣の先進農家や農場で、農業体

験実習を行っています。当初は希望者の一、二年生のみで、三年生は県外で行っていました。昨年からは一年生は全員五月に農業実習を、そして、今年から二年生は

全員が企業で販売実習を行っています。これは生産から販売まで一貫した学習を行ない、地域の産業人を育成するという科の方針に沿ったものです。地域の人々と交流し、共に汗を流す中で、生徒達は多くの事を教わり、また自らも学んでいます。それは農業に新しい目を開くものであったり、地域の人々への感謝であったり、成就感や、「私も役に立った」という自信であったりします。このように、生徒達に活力を与えてくれる現場実習を、より一層充実したものにしたいと思っています。

環境科学科

去る十月十七日より五日間、地元の農機具メーカーと土木関係企業で二年生が現場実習を行いました。新しい学科になってからは三年目、以前の学科では長年実施してきた伝統ある行事でもありません。実習先では、日頃の学校生活とは違う体験をする中で生き生きとした表情をしている生徒も沢山います。またこの実習は、地元とつながることも、勿論ですが、実習先には先輩方も沢山いらっしやいます。そんな、つながりも大事



地元企業における施工実習

にできています。実際の社会と学校が結びつく機会の一つである現場実習を、今後もより一層充実したものにしていけるように、みんなで作ってあげていきたいと思っています。

生活福祉科

世羅高校生活福祉科は「小さな力は無限大」をモットーに、「未来にあなたのやさしさを伝えたい」とがんばっています。二年から類型に分かれ、福祉類型では、福祉に対する基本理念を育て、将来「介護マンパワー」として地域の高齢者福祉に貢献できる人材を育てます。ホームヘルパー二級が認定されます。生活経営類型では、生活に関する知識や技術をもとに

将来幅広い職業人として活躍できる人材を育てます。家政科から学科改編して七年目を迎え、卒業生が地元の福祉施設で活躍するようになってきました。

四年前より小学生から高齢者までを高校生がコーディネートしながら、こころの交流をはかる世代間交流会を行ってきました。先日行った今高野山周辺のクリーンウォーキング、十一月二十六日に本校で行った高校生による「ほのほのデイサービス」には地元の方が多数ご参加くださり、生徒自身も輝き、参加者もとても喜ばれました。

卒業生の皆様もぜひこれらの行事にご参加くださり、後輩たちを叱咤激励していただければ幸いです。



世代間交流のひとこま

生徒会活動

生徒会は、生徒の自主的な活動を保障する場として、定期的には土曜日の三限目を利用して、生徒会本部の指揮のもと活動しています。例えば、クリン大作戦や各クラブの大会出場にもなう壮行式、文化祭の準備などです。クリン大作戦は、学期に一度の割合で設定し、保健委員会とも連携し、掃除区域のクラス割り当て、掃除道具の準備などを本部が事前に行い、当日全校集会をもつてとりかかるといった具合です。

また生徒会本部はさまざまな生徒会行事を計画し、各委員会と連携を図りながらその成功に尽力しています。主な行事としては、球技大会・体育祭・文化祭などです。球技大会・体育祭では体育委員と、文化祭では文化祭実行委員とともにつくりあげていくということになります。これらの行事を成功させるために必要なのが本部です。生徒会本部は、会長・副会長・書記・広報・渉外などから成り立っていますが、定期的に会合を開きながらそれぞれの行事についての計画を立てています。生徒会顧問もそれには参加し、あくまでも生徒の自主活動であることを念頭に置きながら助言をしています。

その他に生徒会本部独自の取り組みとしてあげられるのが、毎年八月六日に行なっている「平和活動」です。この日が登校日でなくなつた十数年前から、生徒の「平和について考えるため何かがしたい」という思いから始まりました。早朝から広島島の平和公園へ行き、それぞれの思いを述べたり、歌を歌つたり、公園内の碑巡りをしたりする活動です。また道ゆく人からもメッセージを布に書いてもらつたり、歌に参加してもらつたりし思いを共有しています。この活動の後、本部には激励の手紙も届いたりして元気づけられています。これからも「生徒とともに創りあげる活動」という視点を大事にしつつ取り組んでいこうと思つています。

組みとしてあげられるのが、毎年八月六日に行なっている「平和活動」です。この日が登校日でなくなつた十数年前から、生徒の「平和について考えるため何かがしたい」という思いから始まりました。早朝から広島島の平和公園へ行き、それぞれの思いを述べたり、歌を歌つたり、公園内の碑巡りをしたりする活動です。また道ゆく人からもメッセージを布に書いてもらつたり、歌に参加してもらつたりし思いを共有しています。この活動の後、本部には激励の手紙も届いたりして元気づけられています。これからも「生徒とともに創りあげる活動」という視点を大事にしつつ取り組んでいこうと思つています。

世羅高校は古くから勉強・生徒会活動・クラブと両立して励む生徒が多く、実際の進路実績を見ても、自分の進路希望を達成した生徒はクラブの引退の時期まで一生懸命に活動に励んでおります。現在、応援団・運動系十四・文化系十のクラブが毎日、朝早くから放課後遅くまで活動を続けています。

陸上競技部が、全国高校駅伝に三十二回目の出場を果たし、昨年十二月二十六日に都大路を縦横無

クラブ活動

陸上競技部が、全国高校駅伝に三十二回目の出場を果たし、昨年十二月二十六日に都大路を縦横無

陸上競技部が、全国高校駅伝に三十二回目の出場を果たし、昨年十二月二十六日に都大路を縦横無



第50回全国大会2位で3区から4区への中継

尽に駆け抜けたことは記憶に新しいところです。日々の厳しい練習と寮生活から規律ある生活管理・健康管理を続けた賜物であると私たちは傍から彼らを見ていて感心させられます。今年の年末も必ずや京都の街に彼らの走る姿があることを今から期待しています。

これらのクラブに続いて、剣道部女子が三月二十日に廿日市市で行われる中国高校新人剣道大会に出場します。女子部員五人というギリギリの状況の中での出場ですが、大会では新しい旋風を吹かせてくれることでしょう。

サッカー部もここ数年、めきめきと力をつけています。昨年は、広島県総合体育大会でベスト8に進出しました。そして、新チーム結成後も地区の諸大会で優勝を続けており、これから県レベルの大会に挑んでいきます。近い将来、年始の国立競技場に生徒たちの姿が見られることを期待しています。

また、吹奏楽部は定期演奏会などで、美術・書道部も世羅・甲山の各地域の催しに作品を展示して日頃の成果を地域の方に披露し、高い評価を受けています。

その他、多くのクラブが諸方面で力を十二分に発揮してくれています。私たち教職員は日々の生徒の活発な活動から元気を与えられています。それを糧にしてクラブの指導にあたつていこうと決意を新たにしています。



世羅高吹奏楽部の演奏

農業クラブ

農業クラブとは、教科農業(世羅高では、生産情報科と環境科学科)を学習する生徒全員が構成メンバーとなる組織です。その組織は、各学校単位(世羅高七人)、各県連盟(広島県七校、九二人)、各ブロック連盟(中国五県、九七五人)、日本学校農業クラブ連盟(全国四七都道府県二万八千人)へとネットワークをひろげていま

農業クラブは、社会性・科学性・指導性を目標にいろいろな学習活動を展開しています。意見発表大会、各種技術競技大会、プロジェクト学習発表、産業教育フェア、ボランティア活動など通常の学習活動に対して、いろいろな発信・活躍できる場所が多くあります。

本年度の全国大会は、富山県で十月二十日～二十一日に開催されました。本校からは、生産情報科二年下村紀子さん、古川大助君、環境科学科三年熊田篤君、平野孝実君が農業鑑定技術競技大会に参加し、それぞれが貴重な体験と大きな自信を身につけました。

家庭クラブ

家庭クラブは生活福祉科が中心となつて活動しています。一年生が大田敬老会、二年生がJAFフェスティバル、二・三年生がひとり暮らし高齢者のつどいへの参加、世代間交流会の開催など常に地域との連携をとりながら地域の中で活動しています。昨年はこれらの実績を家庭クラブの県大会で発表し最優秀賞をいただきました。また今年度は、「まなびピア広島」でのレクレーション実演、高校生によるほのぼののデイサービスなど三年生が中心となつて活動しています。

同窓会地域便り

東京校友会

世羅高東京校友会会長 秦 典三
 世羅高等学校同窓会で会報を創刊することになりました。是非東京校友会からも投稿するよう依頼がありましたので、雑感を交えつつお祝いのご挨拶を述べます。

東京校友会の会報「とうきよう世羅」は一九九五年十月創刊号を配布致して以来一九九九年九月まで第九号が発行されました。

「とうきよう世羅」の編集及び発行は総て会員から選ばれた委員の方のボランティアで、継続発行され現在までになりました。

世羅高東京校友会概況に就いて、校友会総会は五年前までは二年に一回開きました、以後年一回開催となって今日に至りました。設立総会から一昨年(九八年)は第二十回総会を開催致しました。

出席者はその年により増減があり大体六十名前後で校友会の運動方針、クラブ活動等について審議いたします。運動方針や活動の改善・継続が討議されます。

クラブ活動など色々提案もあり役員会に計り検討した上実施可能なクラブ活動は発足します。

現在クラブは囲碁を二ヶ月に一回開催としております。

会報の取り持つ縁で、新しい人

間関係も生まれ同窓の繋がりが深まってまいります。

世羅高等学校同窓会会報が母校の発展と同窓生の声を提供して頂き、会員相互の自助の力として警鐘を鳴らすこともあれば生活の憩いの場とも成れる会報に育って頂く事を願ってご挨拶と致します。



1999年11月

近畿同窓会

近畿同窓会会長 勝見 有造

今回同窓会報が発行される運びになったとのこと、先ずは衷心よりお祝い申しあげますとともに、中味の濃いものなることを期待しております。

ご存知の通り、近畿同窓会は駅伝を応援しようと、自然発生的に生まれたもので、幸い今年も監督以下選手達の日頃の努力が実を結び、大会出場を決めてくれ、目下カンパ集めに大奮闘であります。例

年のペースであれば二〇〇名内外の会員から、約一〇〇万円の淨財が寄せられる見込みであります。

会報が出来上がる頃には、駅伝の結果が出ていることと思いがすが、どうかこの不況を吹き飛ばす勢いで、目一杯、頑張ってくださいようお祈りしております。



(一九九九年十二月)

台湾同学会

会長 陳 振茂

一九九六(平成八)年六月二十三日開催の世羅高等学校創立百周年記念式に、台湾同学会祝賀団一行二十四名(他に日本在住者三名)の来校をいただきました。

これに対する謝礼表敬訪問団(小島会長・故石川校長他九名)が、一九九八(平成十)年十月八日に台北を訪問しました。そして同学会の方々十名と四日間をわた

り交流と親睦を深めると共に「日台校友懇親夕食会」開催により、故坂口会長が生前強く希望されていた表敬訪問の目的を果たし、なお一層きずなを深めることができました。

(高橋明夫 記)



1998年10月9日 台北國賓大飯店にて

その他

その他次の支部があり紹介します。(名古屋支部) 代表 西谷 強
 二・三年に一度会合。会員約五十名。(広島支部) 代表 金田東一
 今後名簿を整理し、総会を開催したい。

(福山支部) 代表 平林光司
 名簿作成し、総会を開催することを検討中。福山近辺の同窓生の皆様は平林代表にご連絡下さい。

(三原・尾道支部) 代表 小池哲馬
 会員約七百名。三原は名簿完了。尾道は作成中。本年中には総会開催予定。

編集後記

昨春、石川敏浩校長先生の自殺という不幸な出来事が報道されてこの方、「一体、母校はどうなっているのか」と、憂慮と激励の便りが全国の同窓の皆様より殺到しました。

以来、同窓会役員会としても対策を話し合い、その結果、これを機に先ず同窓の皆様に母校の現状をお伝えし、同窓生の絆を一段と強めることを目的に、同窓会会報を発行することと致しました。

よって創刊号は、この九ヶ月間の母校の現状をお知らせし、再生世羅高の姿を知っていた、たくことを主眼とした内容となっております。今後は、年一回発行予定ですので、同窓生皆様のご意見・ご連絡等のご投稿をいただければ幸甚に存じます。

また、同窓会運営の決議機関としての総会に、近年出席が少なく現状を打破するための一つとして、規約改正も検討中であります。同窓生皆様のご支援ご協力を切にお願ひ申し上げます。

※お願ひ事項
 (一) 二〇〇〇(平成十二)年度総会。
 期日 八月二十日(日) 正午より。

場所 玉乃家(世羅町)
 (二) 原稿募集 「母校を想う」題
 で二〇〇〇字以内。
 編集委員
 黒木 正(S20年卒) 溝上尚美(S22年卒)
 伊藤陽康(S28年卒) 石原正俊(S28年卒)
 守光 崇(S39年卒)